

子育て支援 コミュニティ協働型ファミリー・リソース・プログラムの実践 ー ノーバディーズ・パーフェクトで多世代をつなぐ試み ー

稲垣 馨
(こども学科 専任講師)

Abstract In this project, "parenting support" is included in the larger framework of "family support". The aim of this project is the practice of the community collaborative type of child care support. In practice, Nobody's Perfect (NP below) currently carried out widely in Japan is used as a concrete example of family support program.

The attendance rate of participants who joined the entire program on March 2012 was 88%. All the participants evaluated the program as "very good" at the end of this program.

In future, I would like to also catch the needs of family who cannot go to the place of support by outreach, cooperating with the related organization of the area.

1. プロジェクト研究の内容, 意義, 目的

本プロジェクトでは「子育て支援」を「家族支援」という大きな枠組みで捉え, コミュニティ協働型の子育て支援の実践を目的としている。なお実践では, ファミリー・サポート・プログラムの具体例として, 日本でも広く実施されているノーバディーズ・パーフェクト (以下NP) を核としている。

主体的な子育てのために親教育プログラムや子育て支援の養成プログラムは個別に実施されている場合が多い。本研究では地域の特性から多世代交流型を目指しており, プログラム参加者及び支援者の双方が, 子育ての場でコミュニティに共に生きるもの同士として出会い, それぞれが活動を通じて自己の成長を体験することになる。体験を通して, エンパワメントされた両者が, 地域の活性化や多層的なネットワーク構築へとつながる意欲を生み出す可能性を秘めているという点でユニークであると言える。

カナダのファミリー・リソースの業務指針では, エコロジカルな視点から, 家族を環境との相互依存的な存在として捉えており, 子育ての問題は地域のつながりの中で包括的なアプローチによって解決すべきであると示されている。この指針は, 人口の減少に加えて少子高齢化が進み, 公共交通網が未発達で人とのつながりを求めにくいA市のような日本の地方小都市において, 孤立している子育て家族に対しても有効な支援の方向性を示していると言える。

2. プロジェクトチームの構成

NPの準備段階から, 子育て支援の利用者側のニーズの調査とコミュニティ・アプローチを目的に, 地域の須影保育園の協力のもと, 親支援プログラムである「おしゃべりタイム」を毎月実施している。約1時間のプログラムの中で, 筆者と安村, 細田講師の三人がそれぞれの専門分野を活かした講義やグループ活動を行なっている。

NPプログラムは, ファシリテーター資格を有する筆者と細田講師が中心となって運営, 実施している。今年度は, 2012年2月～3月にかけて計6回実施した。対象は, おしゃべりタイムに参加しているメンバーの中でNPへの参加を希望した3名に加え, チラシやHPで公募を行った5名, 連携している地域の保育所から紹介された親3名を含む計11名 (平均年齢34.2歳, 対象児2.2歳) であった。託児を担当する支援者側は, 公開講座後のアンケートで子育て支援プログラムへの参加を希望した祖父母世代7名と学生ボランティア13名, 計20名によって構成された。ボランティアに対しては, NP開始前に2日間にわたって事前準備講座を実施した。全プログラムを通じた参加者の出席率は88%, 祖父母世代のボランティアの出席率は83%であり, プログラム終了後の参加者による評価は, 全員が「非常に良い」という結果が得られた。終了後も親子を対象とした月1回のグループ活動を含めて, 地域での子育て家族の交流活動が行われている。

また多世代交流に関しては、祖父母世代のグループ活動への参加と、終了後1年など、節目の時点での同窓会の開催なども予定されている。

3. プロジェクト研究の成果

プログラムの成果の一部は平成24年5月に開催される第65回日本保育学会において発表を行う。さらにNP実施に関する成果報告は、平成24年7月に開催される「明治安田生命こころの健康財団2011年度（第47回）研究成果報告会」にて、発表を予定している。

4. 今後の展開

今後は地域の関連機関と連携しながら、アウトリーチによって、支援の場に足を運べない家族のニーズも捉えていきたい。さらにNPの実践を重ねてその効果を質的に吟味し、他の子育て支援プログラムとの比較を行うことで、ファミリー・リソース・プログラムとしてのNPの独自性を検証する必要があるだろう。